

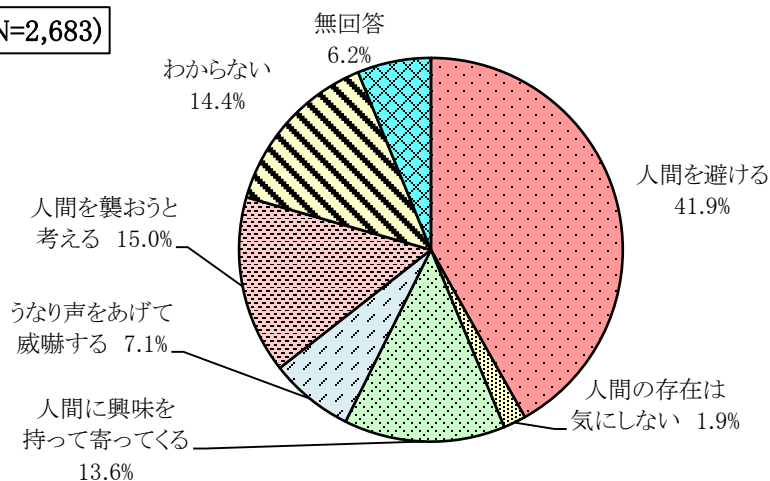
### (3) 札幌市に生息するヒグマとの共生と出没対策について

#### ヒグマが人間の気配を感じた時に取る行動に対する認識

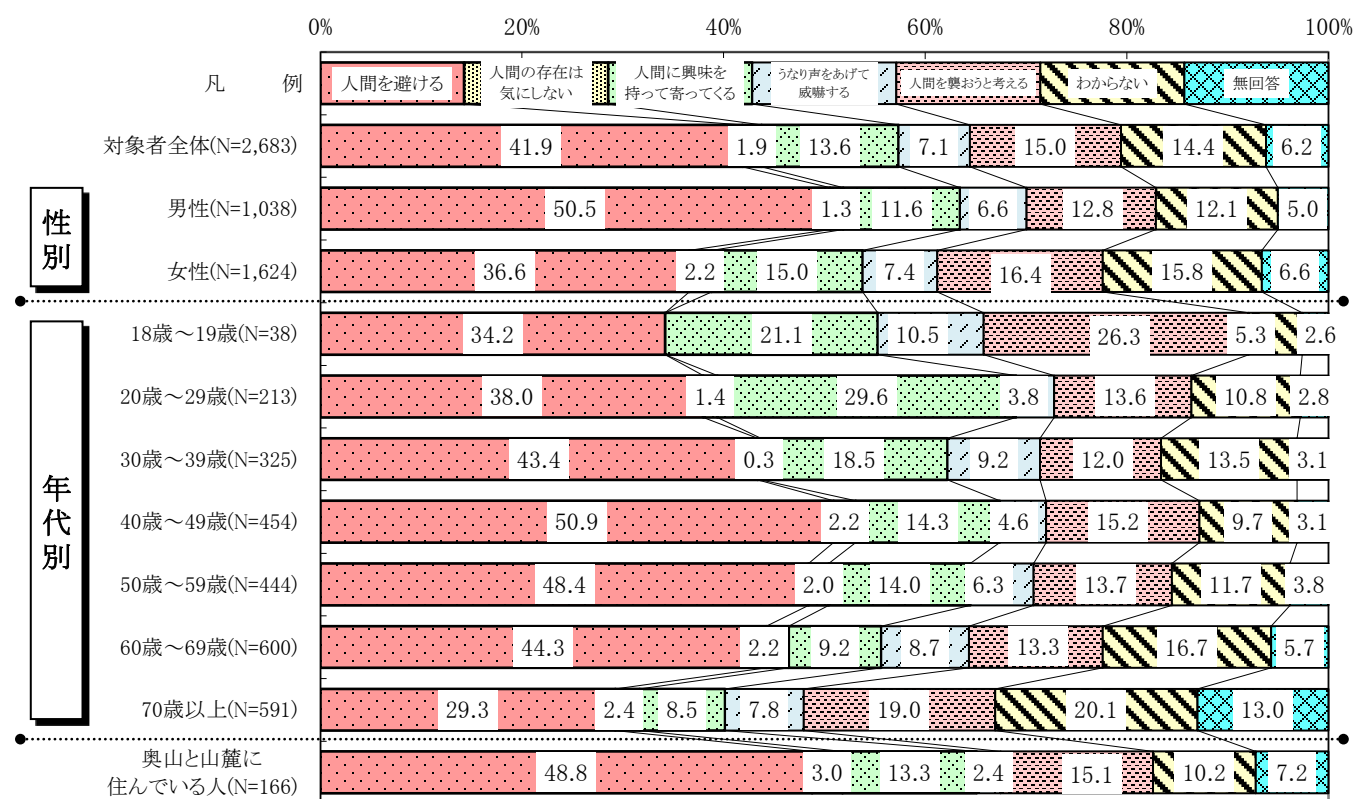
【問1】 あなたは、ヒグマは山林の中などで人間の気配を感じた時どのように行動する動物だと思いますか。  
 もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

ヒグマは「人間を避ける」動物と思っている人が4割強

対象者全体(N=2,683)



【対象者全体】 ヒグマが人間の気配を感じた時に取る行動について、「人間を避ける」が41.9%、「人間の存在は気にしない」が1.9%、「人間に興味を持って寄ってくる」が13.6%、「うなり声をあげて威嚇する」が7.1%、「人間を襲おうと考える」が15.0%となっている。



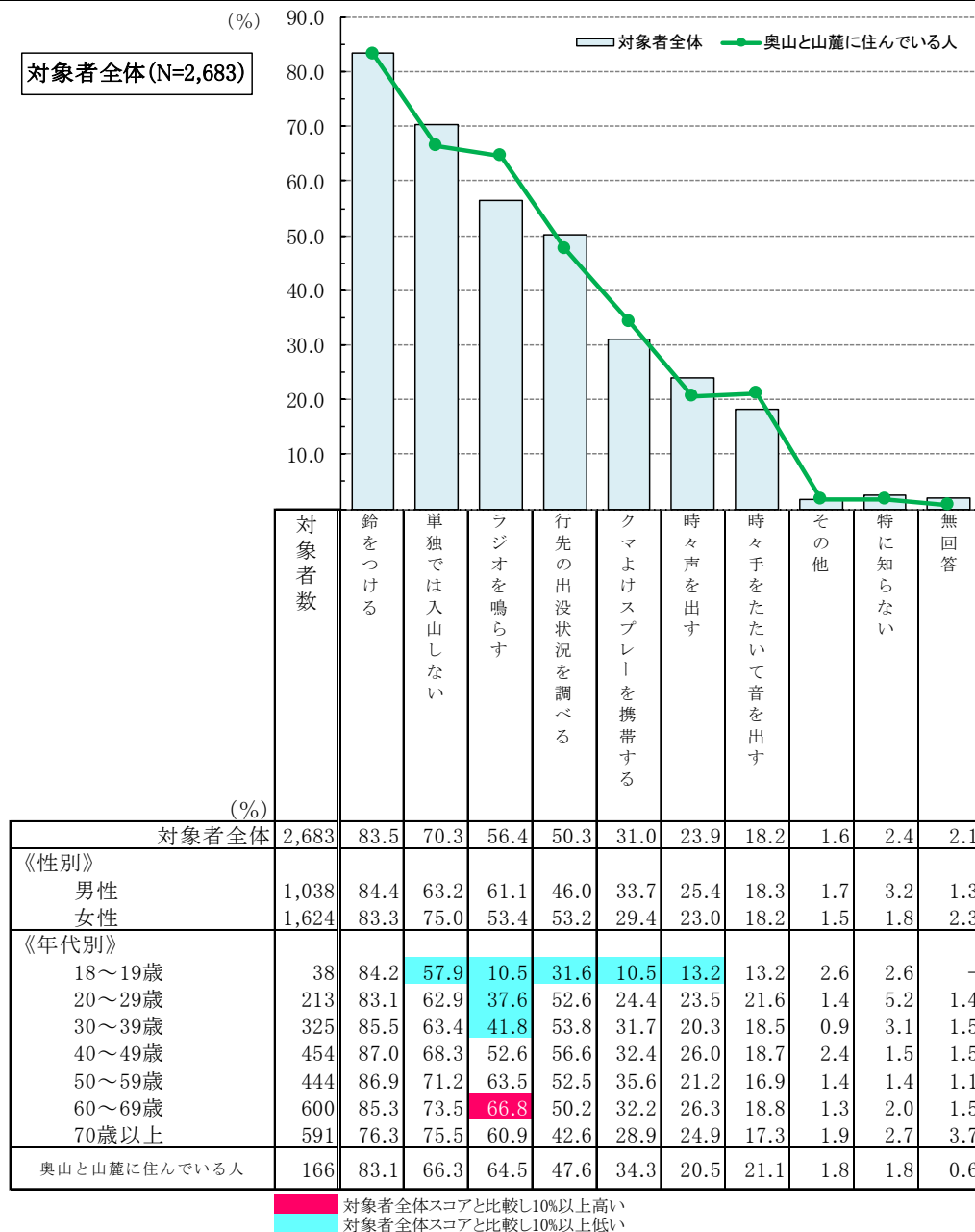
【性別】 「人間を避ける」は男性が50.5%と、女性の36.6%より13.9ポイント高くなっている。

【年代別】 「人間を避ける」は40歳代が50.9%で最も高く、最も低い70歳以上の29.3%とは21.6ポイント差となっている。

## ヒグマとの遭遇を避ける方法の認知度

【問2】 あなたが、山林の中などでヒグマとの遭遇を避けるための方法として、知っていることはありますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ヒグマとの遭遇を避ける方法として「鈴をつける」ことを知っている人が8割強



【対象者全体】 ヒグマとの遭遇を避けるための方法として知っていることは、「鈴をつける」が83.5%と最も高く、次いで「単独では入山しない」が70.3%、「ラジオを鳴らす」が56.4%となっている。

【性別】 「単独では入山しない」は女性が75.0%と、男性の63.2%より11.8ポイント高くなっている。

【年代別】 「ラジオを鳴らす」は60歳代で66.8%と全体よりも高くなっているが、30歳代以下では全体よりも低くなっている。「単独では入山しない」は年代が高くなるほど知っている比率も高くなっている。

【奥山と山麓に住んでいる人】 「ラジオを鳴らす」は64.5%と、全体よりもやや高くなっている。

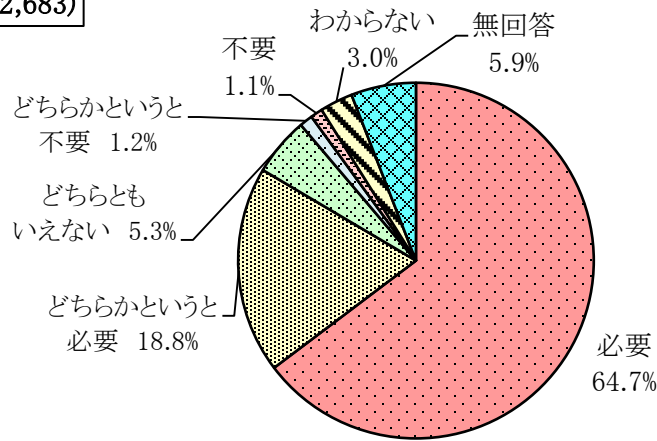
行政が行う取り組みの必要性<ア 専門家による出没場所の調査>

【問3】 あなたは、行政が行う次の取り組みの必要性について、どのように思いますか。それぞれの取り組みについて、あなたのお考えにもっとも近いものに1つずつ○をつけてください。

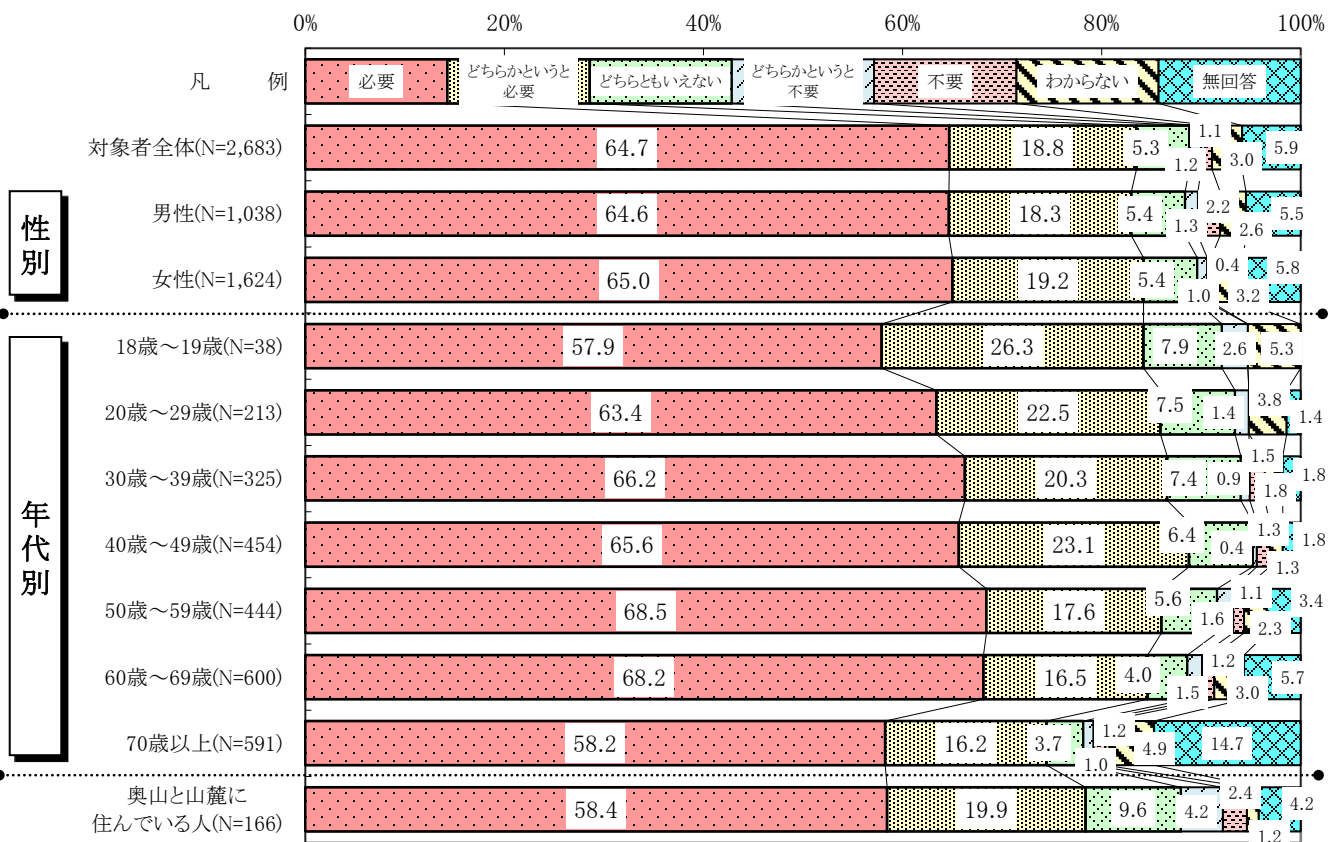
8割強が専門家によるヒグマの出没場所の調査を“必要”と感じている

※“必要”(「必要」+「どちらかという必要」)

対象者全体(N=2,683)



【対象者全体】 行政が行う取組の必要性について、専門家による出没場所の調査は、「必要」が 64.7%、「どちらかという必要」が18.8%、「どちらともいえない」が5.3%、「どちらかという不要」が1.2%、「不要」が1.1%となっている。



【性別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 “必要”は70歳以上で74.4%と他の年代と比べると低くなっている。なお、他の年代は8割を超えて“必要”としており、70歳以上を除く年代で大きな差はみられない。

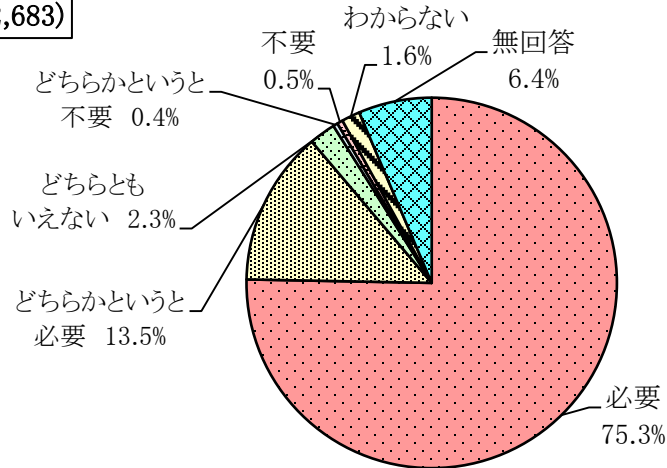
【奥山と山麓に住んでいる人】 “必要”は78.3%と、全体よりもやや低くなっている。

行政が行う取り組みの必要性<イ 付近の学校や公共施設などへの出沒情報提供(電話・FAX・メールなど)>  
 【問3】 あなたは、行政が行う次の取り組みの必要性について、どのように思いますか。それぞれの取り組みについて、あなたのお考えにもっとも近いものに1つずつ○をつけてください。

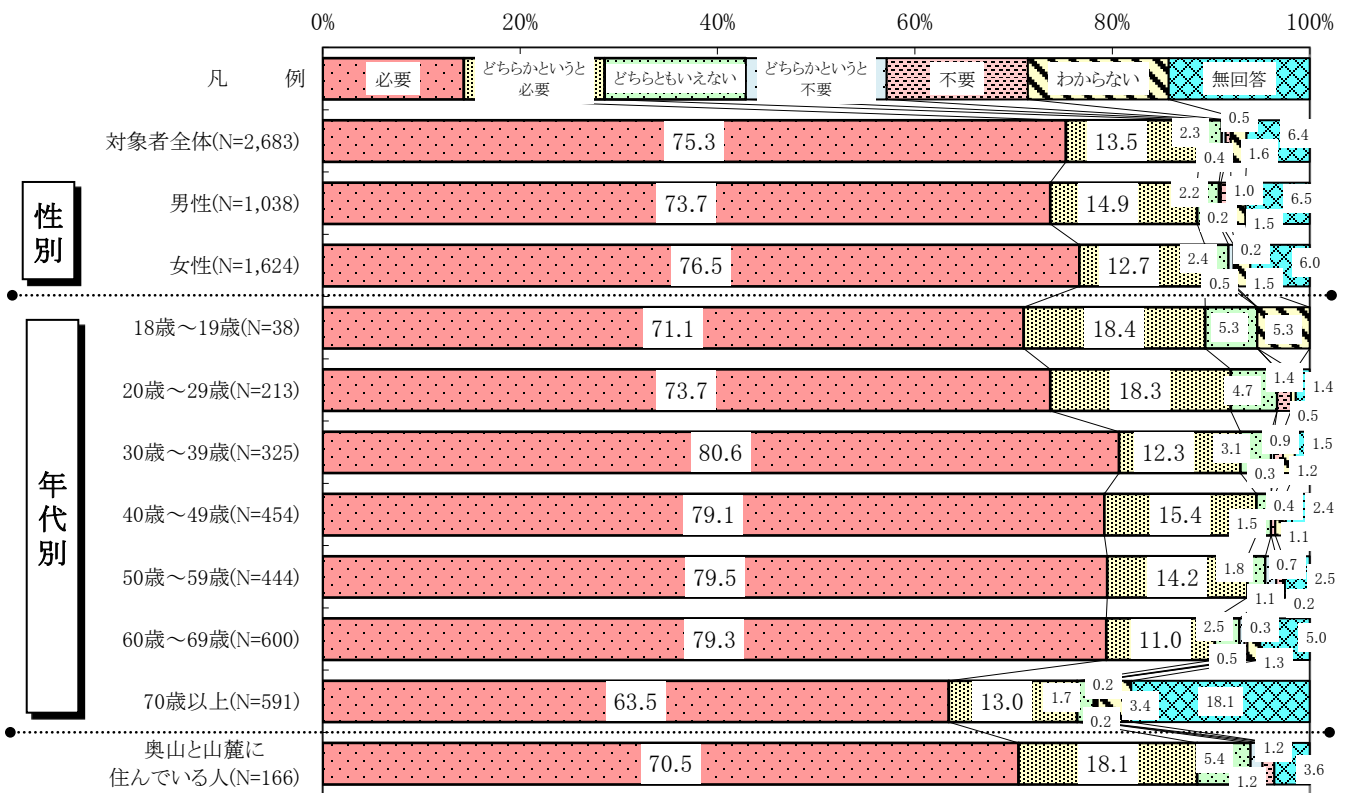
9 割弱が付近の学校や公共施設などへのヒグマの出沒情報提供を“必要”と感じている

※“必要”(「必要」+「どちらかという必要」)

対象者全体(N=2,683)



【対象者全体】 行政が行う取組の必要性について、付近の学校や公共施設などへの出沒情報提供(電話・FAX・メールなど)は、「必要」が75.3%、「どちらかという必要」が13.5%、「どちらともいえない」が2.3%、「どちらかという不要」が0.4%、「不要」が0.5%となっている。



【性別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 “必要”は40歳代が94.5%、次いで50歳代が93.7%、40歳代が92.9%の順となっている。

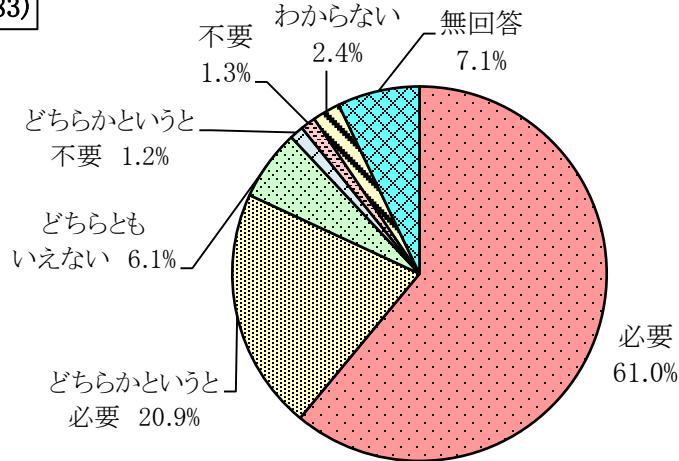
行政が行う取り組みの必要性<ウ> 市民への出沒情報提供(ホームページ)>

【問3】 あなたは、行政が行う次の取り組みの必要性について、どのように思いますか。それぞれの取り組みについて、あなたのお考えにもっとも近いものに1つずつ○をつけてください。

8割強が市民へのヒグマの出沒情報提供(ホームページ)を“必要”と感じている

※“必要”(「必要」+「どちらかという必要」)

対象者全体(N=2,683)



【対象者全体】 行政が行う取組の必要性について、市民への出沒情報提供(ホームページ)は、「必要」が61.0%、「どちらかという必要」が20.9%、「どちらともいえない」が6.1%、「どちらかという不要」が1.2%、「不要」が1.3%となっている。



【性別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 “必要”は20歳代が89.7%、次いで50歳代が89.0%、40歳代が87.9%の順となっている。

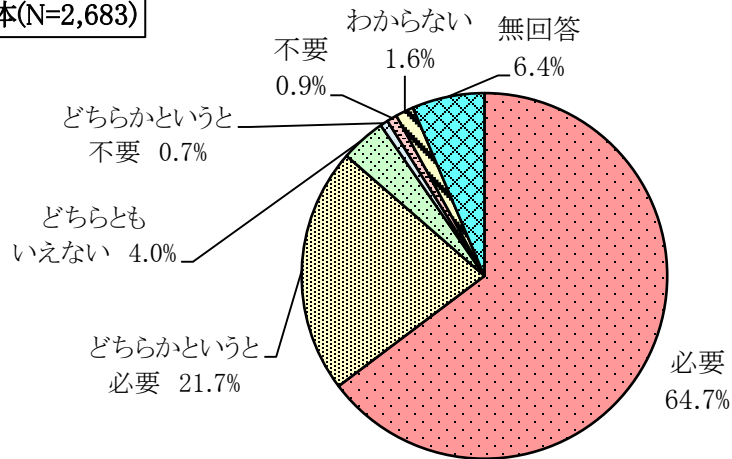
行政が行う取り組みの必要性<エ 出没時の警察署と連携したパトロール・広報>

【問3】 あなたは、行政が行う次の取り組みの必要性について、どのように思いますか。それぞれの取り組みについて、あなたのお考えにもっとも近いものに1つずつ○をつけてください。

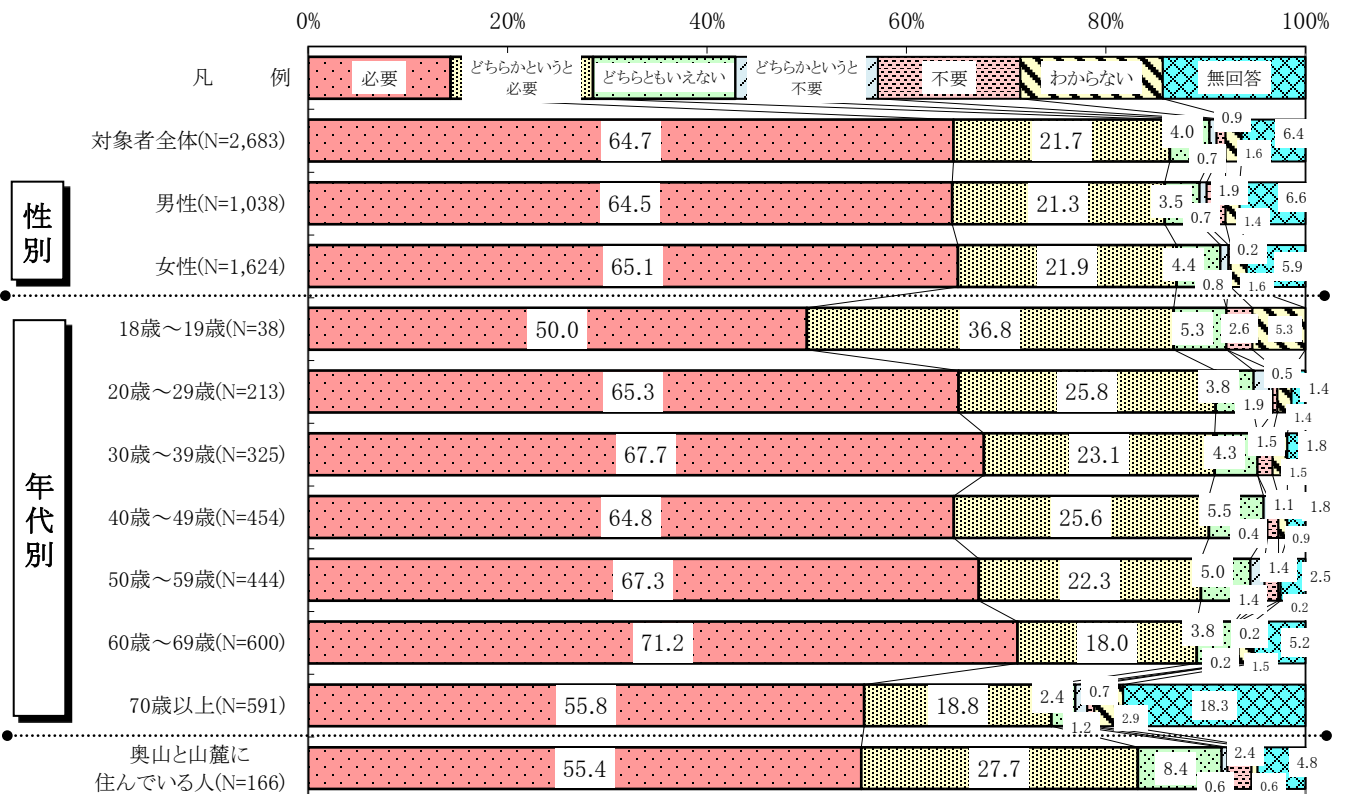
8割半ばがヒグマ出没時の警察署と連携したパトロール・広報を“必要”と感じている

※“必要”(「必要」+「どちらかという必要」)

対象者全体(N=2,683)



【対象者全体】 行政が行う取組の必要性について、出没時の警察署と連携したパトロール・広報は、「必要」が64.7%、「どちらかという必要」が21.7%、「どちらともいえない」が4.0%、「どちらかという不要」が0.7%、「不要」が0.9%となっている。



【性別】 男女で大きな差は見られない。

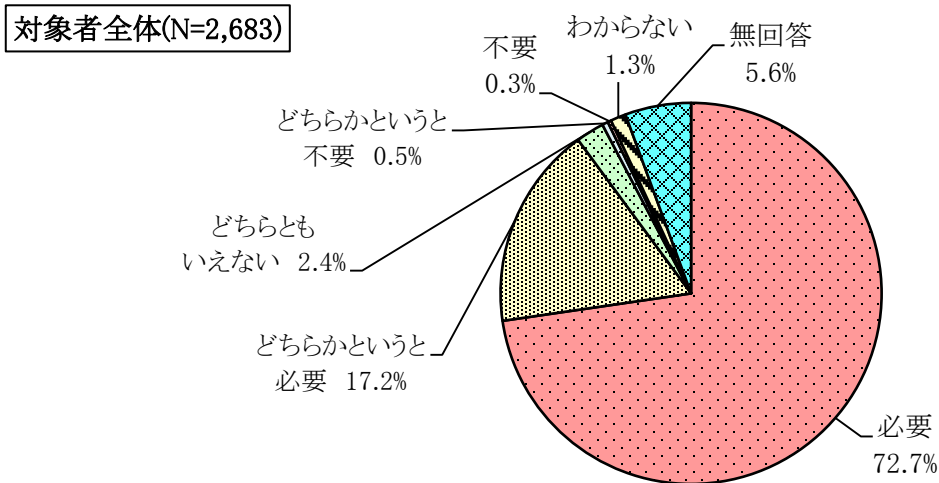
【年代別】 “必要”は20歳代が91.1%、次いで30歳代が90.8%、40歳代が90.4%の順となっている。

行政が行う取り組みの必要性<オ 出沒地への注意呼掛け看板設置>

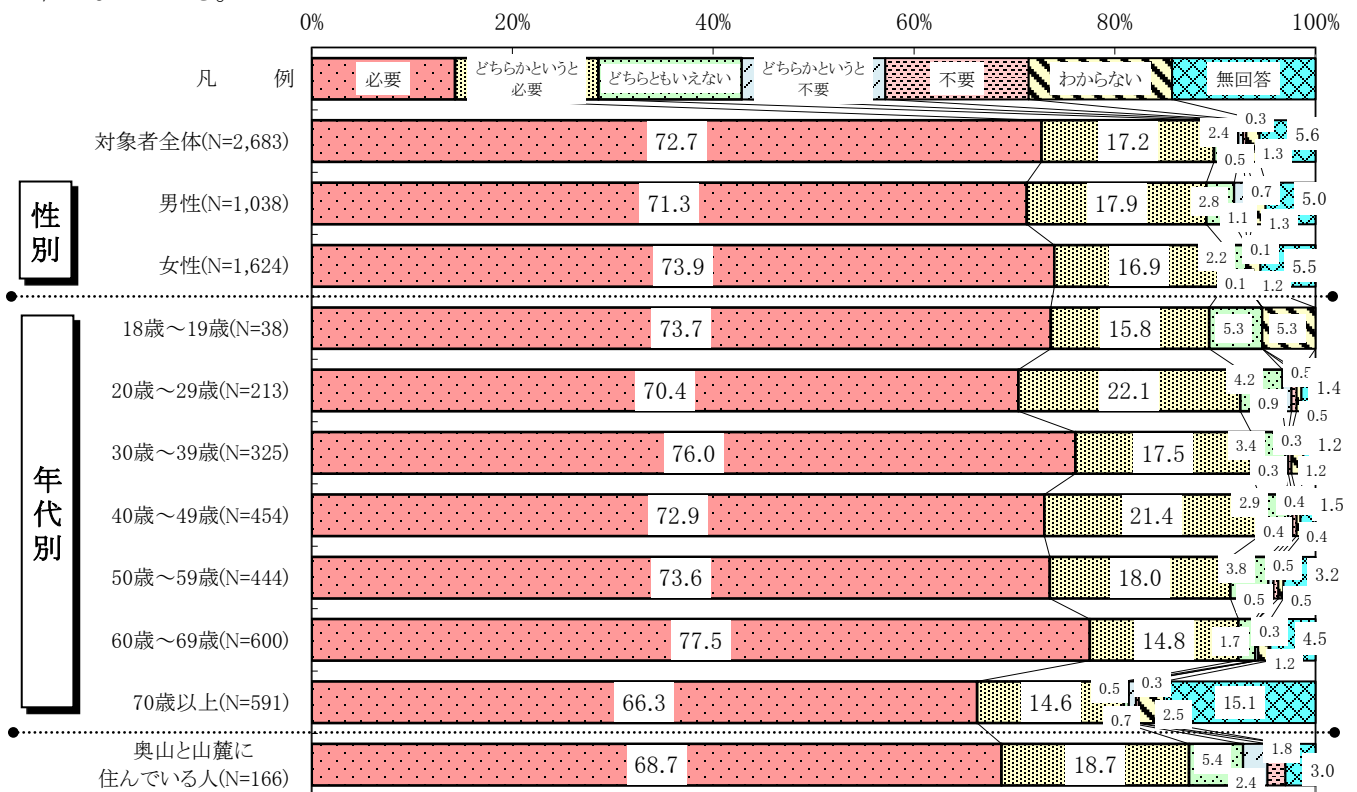
【問3】 あなたは、行政が行う次の取り組みの必要性について、どのように思いますか。それぞれの取り組みについて、あなたのお考えにもっとも近いものに1つずつ○をつけてください。

9割弱がヒグマ出沒地への注意呼掛け看板設置を“必要”と感じている

※“必要”（「必要」+「どちらかという必要」）



【対象者全体】 行政が行う取組の必要性について、出沒地への注意呼掛け看板設置は、「必要」が 72.7%、「どちらかという必要」が 17.2%、「どちらともいえない」が 2.4%、「どちらかという不要」が 0.5%、「不要」が 0.3%となっている。



【性別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 “必要”は40歳代が94.3%、次いで30歳代が93.5%、20歳代が92.5%の順となっている。



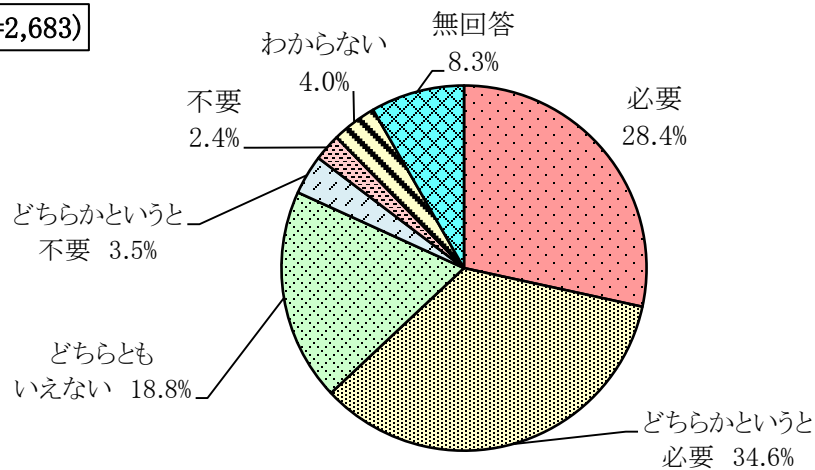
行政が行う取り組みの必要性<カ 児童や市民を対象としたヒグマの生態などの講習会>

【問3】 あなたは、行政が行う次の取り組みの必要性について、どのように思いますか。それぞれの取り組みについて、あなたのお考えにもっとも近いものに1つずつ○をつけてください。

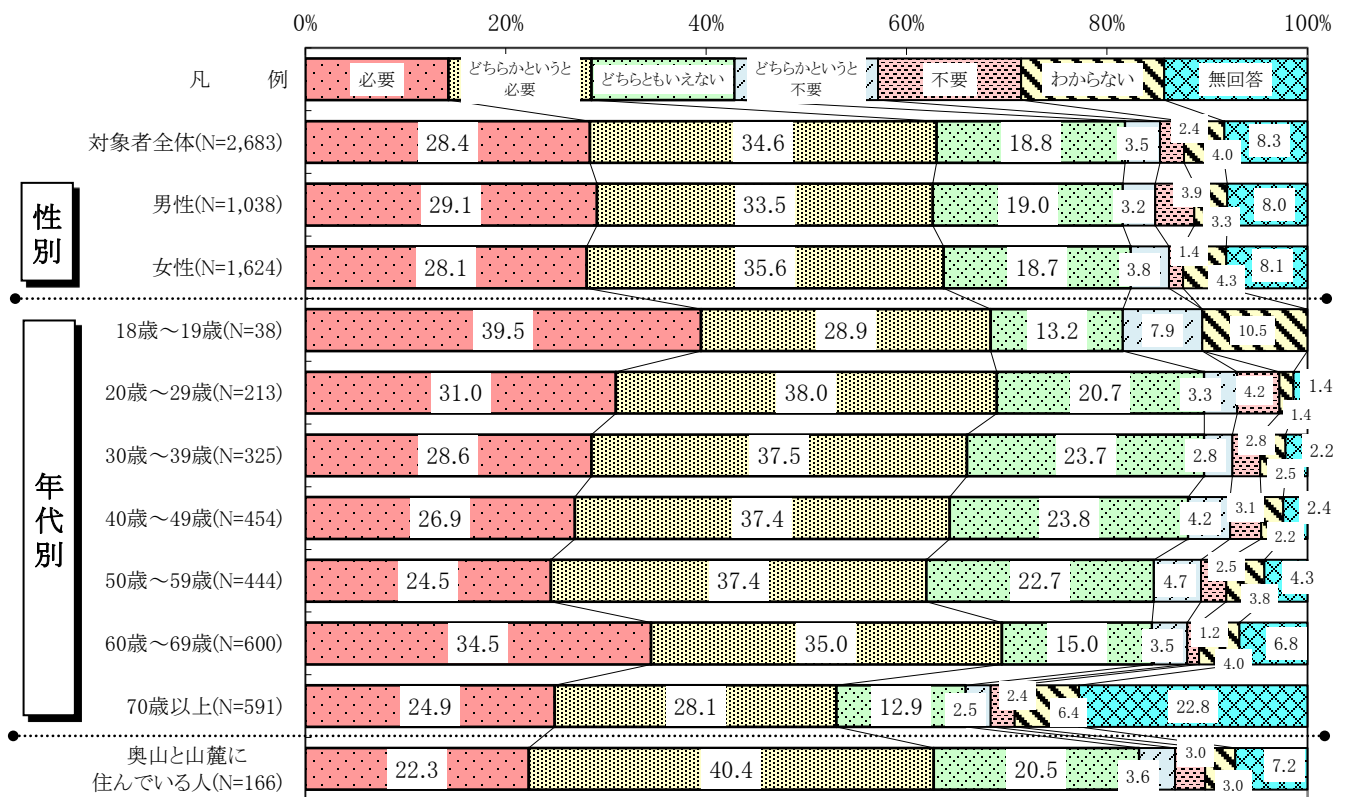
6割強が児童や市民を対象としたヒグマの生態などの講習会を“必要”と感じている

※“必要”(「必要」+「どちらかという必要」)

対象者全体(N=2,683)



【対象者全体】 行政が行う取組の必要性について、児童や市民を対象としたヒグマの生態などの講習会は、「必要」が28.4%、「どちらかという必要」が34.6%、「どちらともいえない」が18.8%、「どちらかという不要」が3.5%、「不要」が2.4%となっている。



【性別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 “必要”は60歳代が69.5%、次いで20歳代が69.0%となっている。



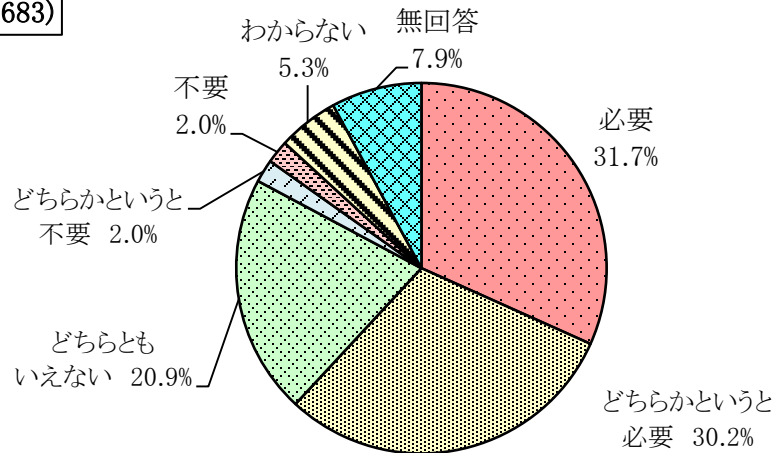
行政が行う取り組みの必要性<キ 農家や施設管理者への電機柵設置などの自衛策指導>

【問3】 あなたは、行政が行う次の取り組みの必要性について、どのように思いますか。それぞれの取り組みについて、あなたのお考えにもっとも近いものに1つずつ○をつけてください。

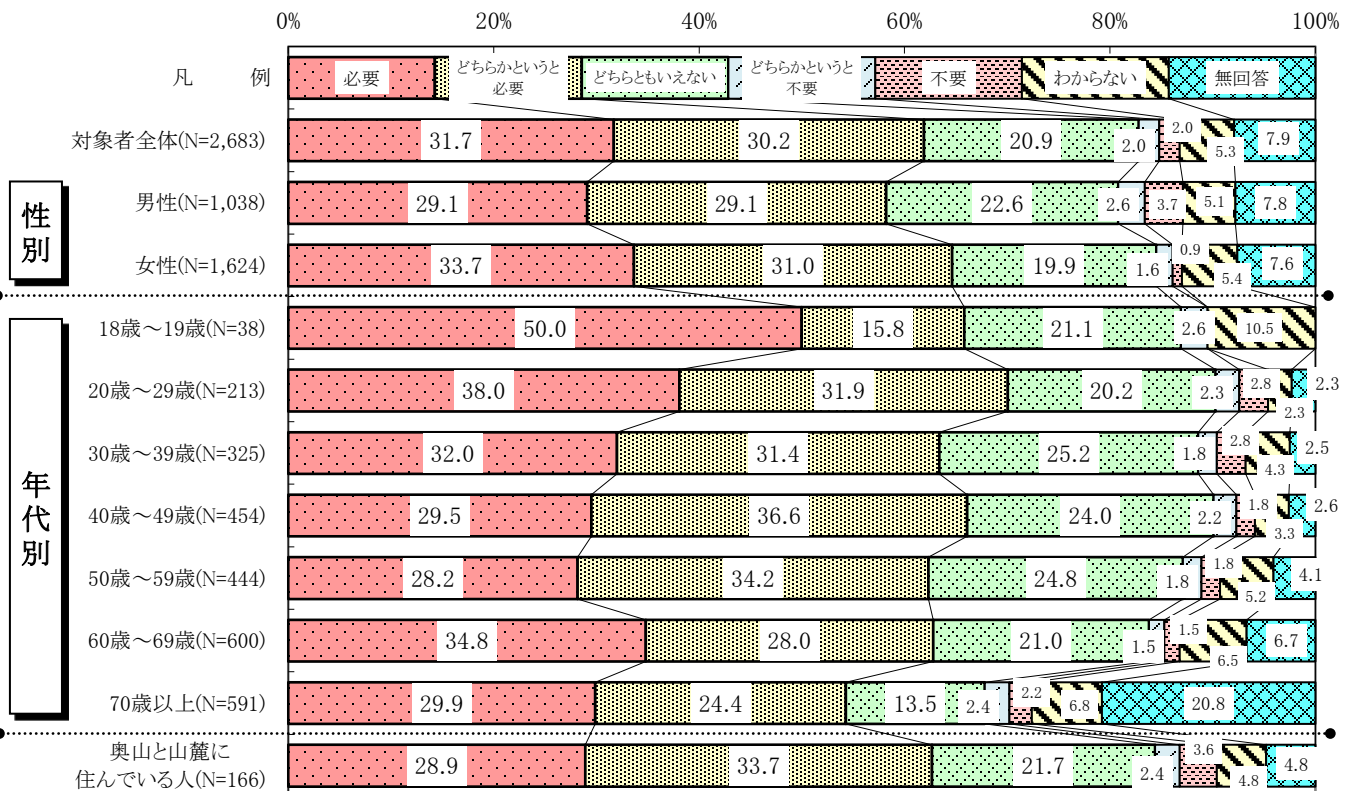
6割強が電機柵設置など、農家や施設管理者へのヒグマからの自衛策指導を“必要”と感じている

※“必要”(「必要」+「どちらかという必要」)

対象者全体(N=2,683)



【対象者全体】 行政が行う取組の必要性について、農家や施設管理者への電機柵設置などの自衛策指導は、「必要」が31.7%、「どちらかという必要」が30.2%、「どちらともいえない」が20.9%、「どちらかという不要」が2.0%、「不要」が2.0%となっている。



【性別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 “必要”は20歳代が69.9%、次いで40歳代が66.1%となっている。

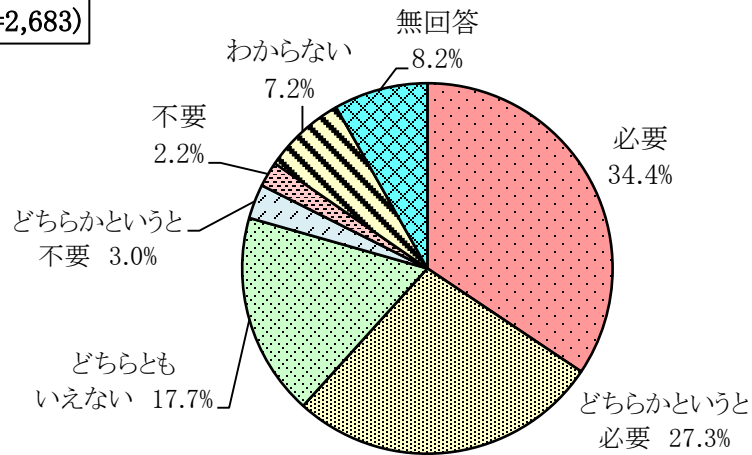
行政が行う取り組みの必要性<ク 科学的な生息状況の調査>

【問3】 あなたは、行政が行う次の取り組みの必要性について、どのように思いますか。それぞれの取り組みについて、あなたのお考えにもっとも近いものに1つずつ○をつけてください。

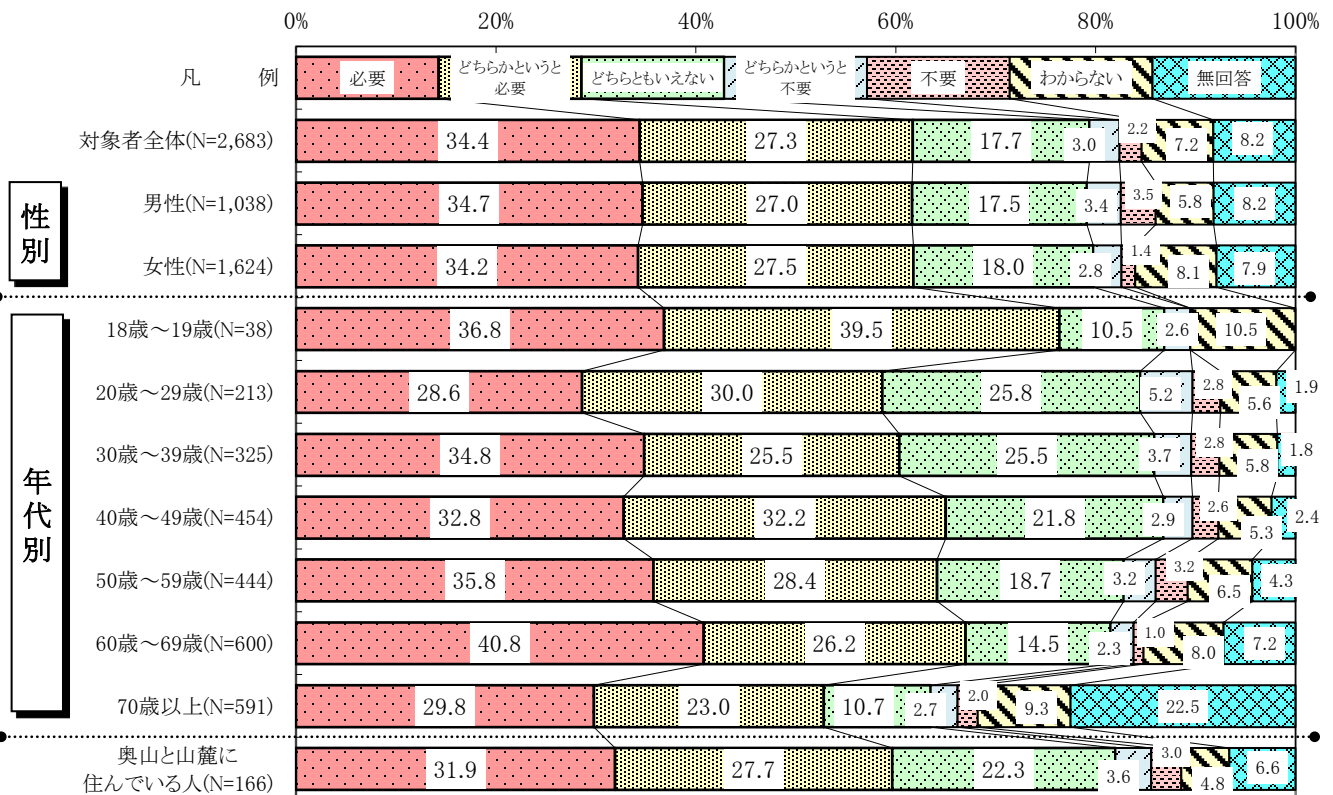
6割強がヒグマの科学的な生息状況の調査を“必要”と感じている

※“必要”(「必要」+「どちらかという必要」)

対象者全体(N=2,683)



【対象者全体】 行政が行う取組の必要性について、科学的な生息状況の調査は、「必要」が 34.4%、「どちらかという必要」が 27.3%、「どちらともいえない」が 17.7%、「どちらかという不要」が 3.0%、「不要」が 2.2%となっている。



【性別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 10歳代と70歳以上を別にするると“必要”は年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向にある。

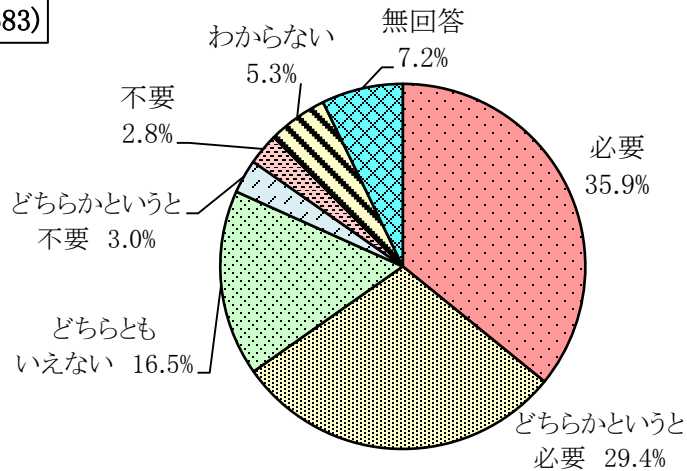
行政が行う取り組みの必要性<ケ 餌となる木の实などの調査>

【問3】 あなたは、行政が行う次の取り組みの必要性について、どのように思いますか。それぞれの取り組みについて、あなたのお考えにもっとも近いものに1つずつ○をつけてください。

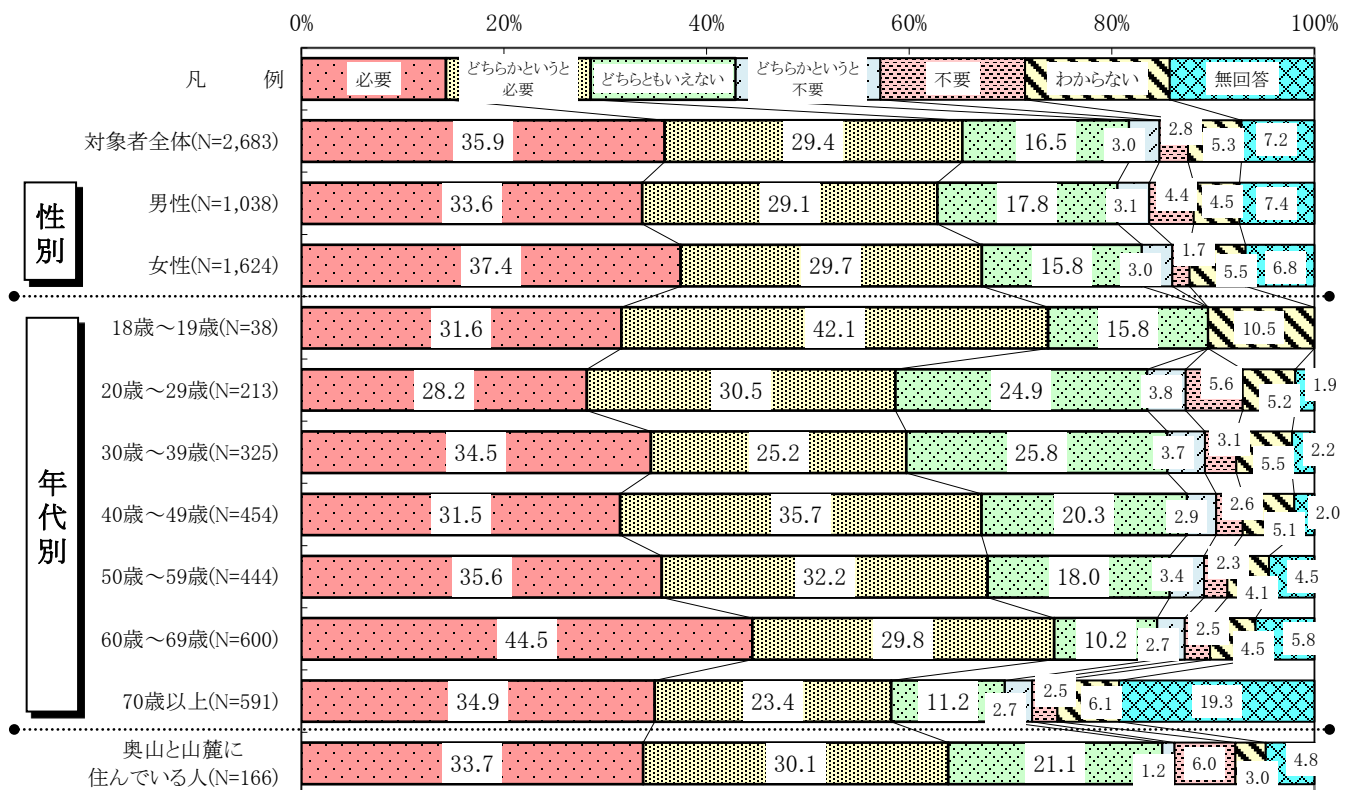
6割半ばがヒグマの餌となる木の实などの調査を“必要”と感じている

※“必要”(「必要」+「どちらかという必要」)

対象者全体(N=2,683)



【対象者全体】 行政が行う取組の必要性について、餌となる木の实などの調査は、「必要」が 35.9%、「どちらかという必要」が 29.4%、「どちらともいえない」が 16.5%、「どちらかという不要」が 3.0%、「不要」が 2.8%となっている。



【性別】 男女で大きな差は見られない。

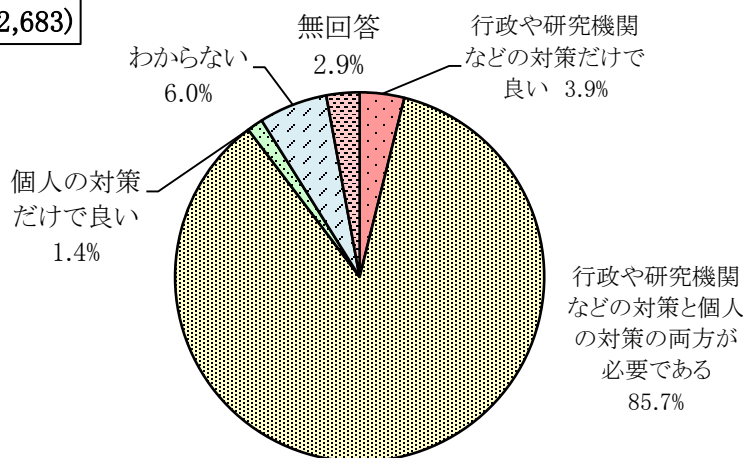
【年代別】 10歳代と70歳以上を別にすると“必要”は年代が高くなるにつれて割合が高くなっている。

## ヒグマ対策を実施すべき主体についての考え方

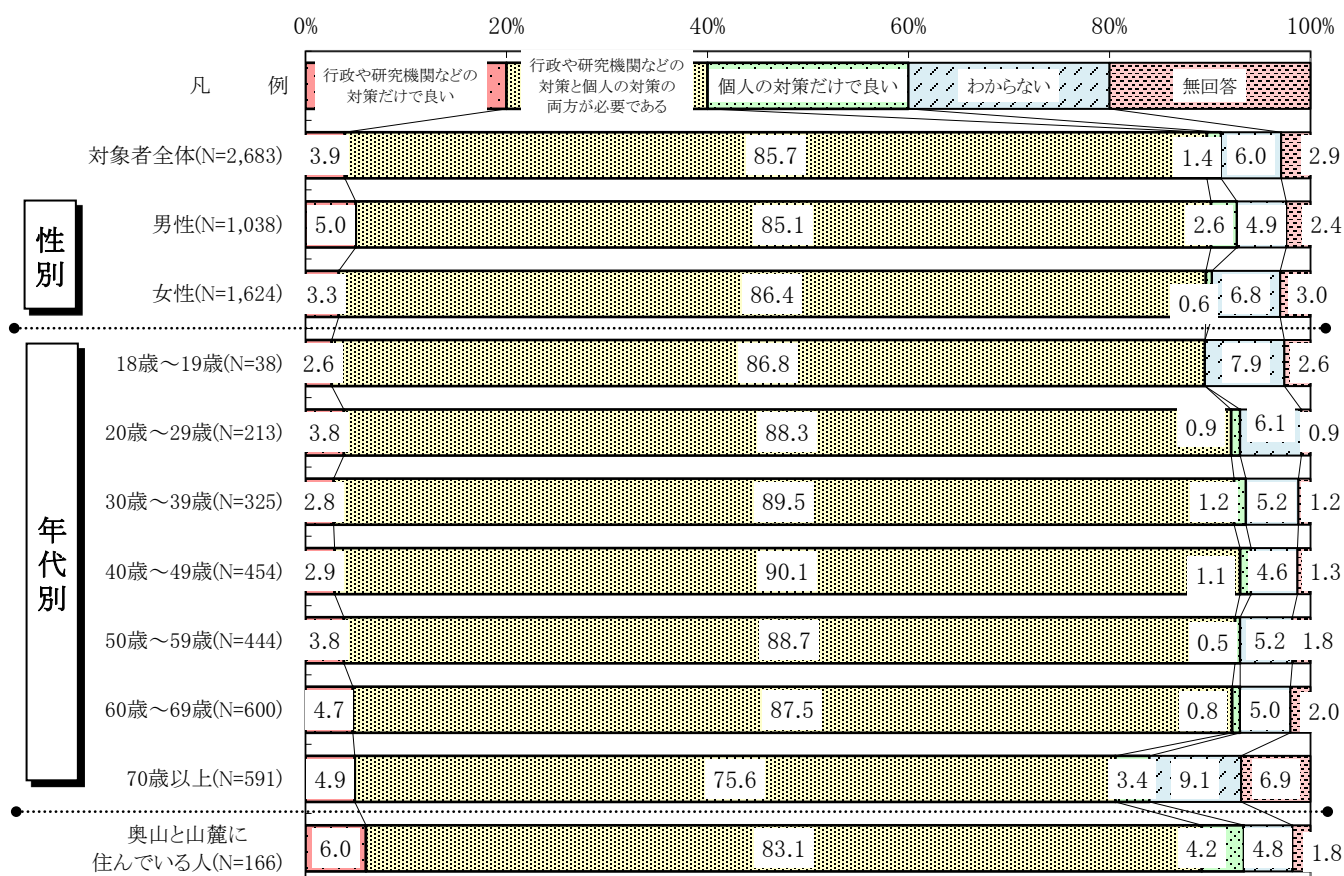
【問4】 あなたは、上記のヒグマ対策について、どのように考えていますか。

8割半ばがヒグマについて「行政や研究機関などの対策と個人の対策の両方が必要である」と回答

対象者全体(N=2,683)



【対象者全体】 ヒグマ対策を実施すべき主体に関する考え方として、「行政や研究機関などの対策だけで良い」が3.9%、「行政や研究機関などの対策と個人の対策の両方が必要である」が85.7%、「個人の対策だけで良い」が1.4%となっている。一方で「わからない」が6.0%となっている。



【性別】 男女で大きな差は見られない。

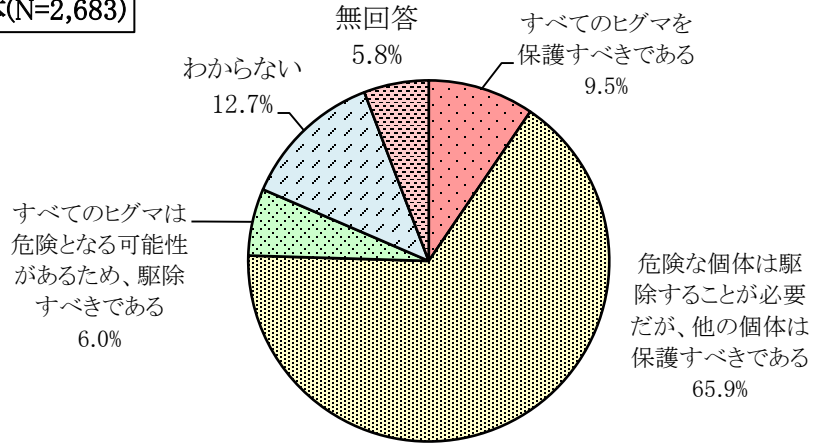
【年代別】 「行政や研究機関などの対策と個人の対策の両方が必要である」は70歳以上を除くすべての年代で8割を超えている。

## 生物多様性の保全の観点から考えるヒグマの保護と対策について

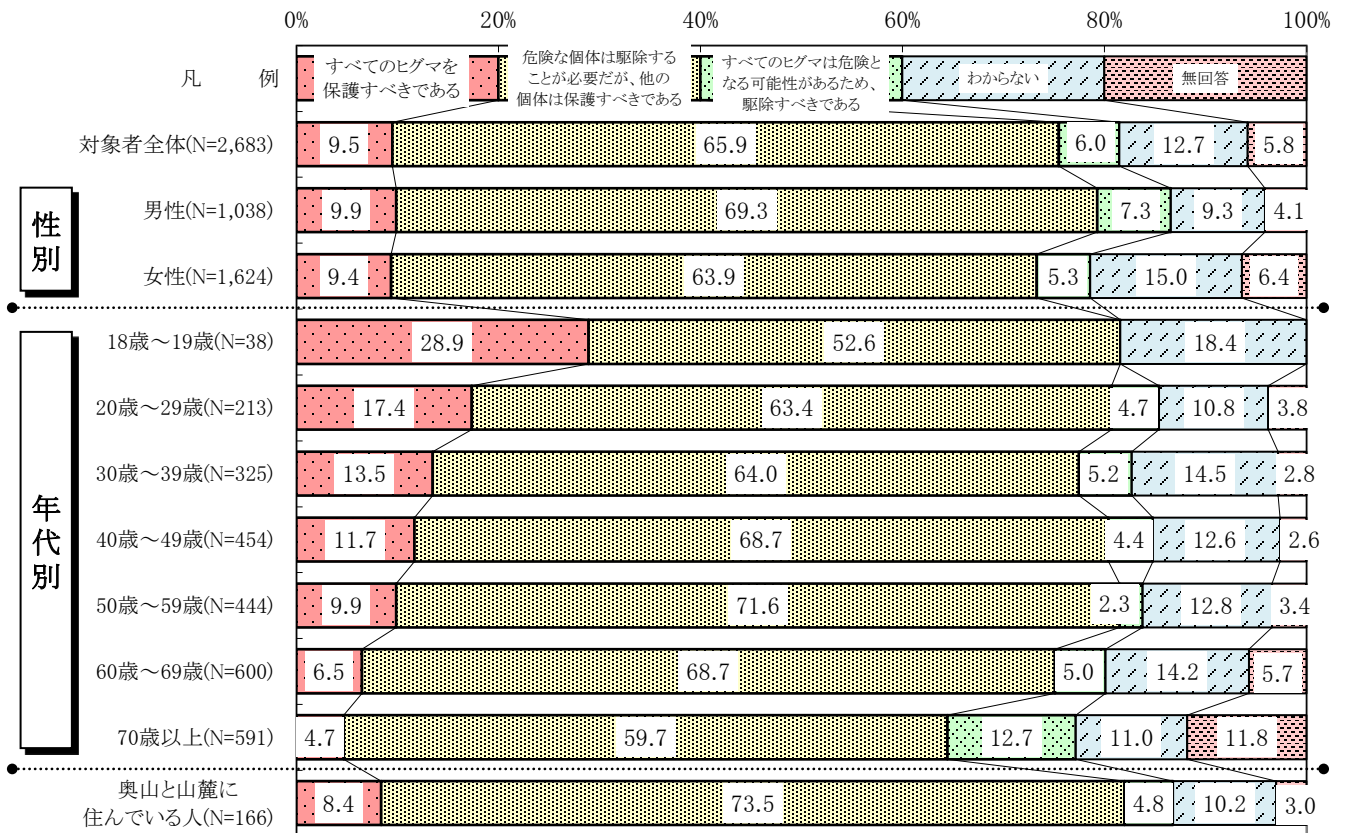
【問5】 あなたは、生物多様性の保全の観点から、ヒグマを保護しつつヒグマ対策を行うことについて、どのように考えていますか。

6割半ばが「危険な個体は駆除することが必要だが、他の個体は保護すべきである」と回答

対象者全体(N=2,683)



【対象者全体】 ヒグマを保護しつつヒグマ対策を行うことについて、「すべてのヒグマを保護すべきである」が9.5%、「危険な個体は駆除することが必要だが、他の個体は保護すべきである」が65.9%、「すべてのヒグマは危険となる可能性があるため、駆除すべきである」が6.0%となっている。一方で、「わからない」が12.7%となっている。



【性別】 「危険な個体は駆除することが必要だが、他の個体は保護すべきである」は、男性が69.3%と女性の63.9%より若干(5.4ポイント)高くなっている。

【年代別】 「すべてのヒグマを保護すべきである」は年代が上がるにつれて低くなっている。

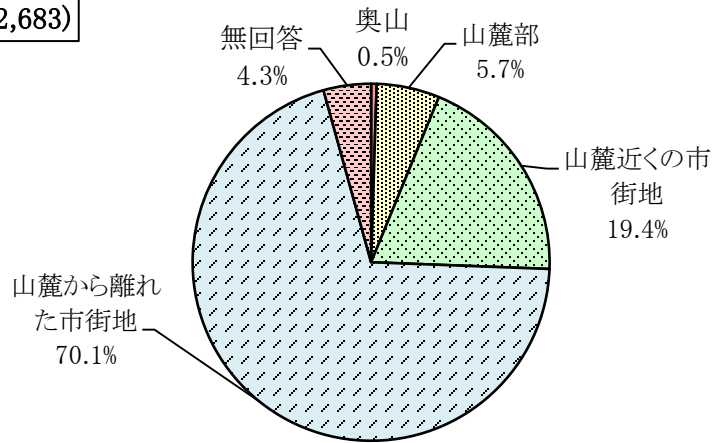
【奥山と山麓に住んでいる人】 「危険な個体は駆除することが必要だが、他の個体は保護すべきである」は73.5%と、全体よりもやや高くなっている。

## 居住地域

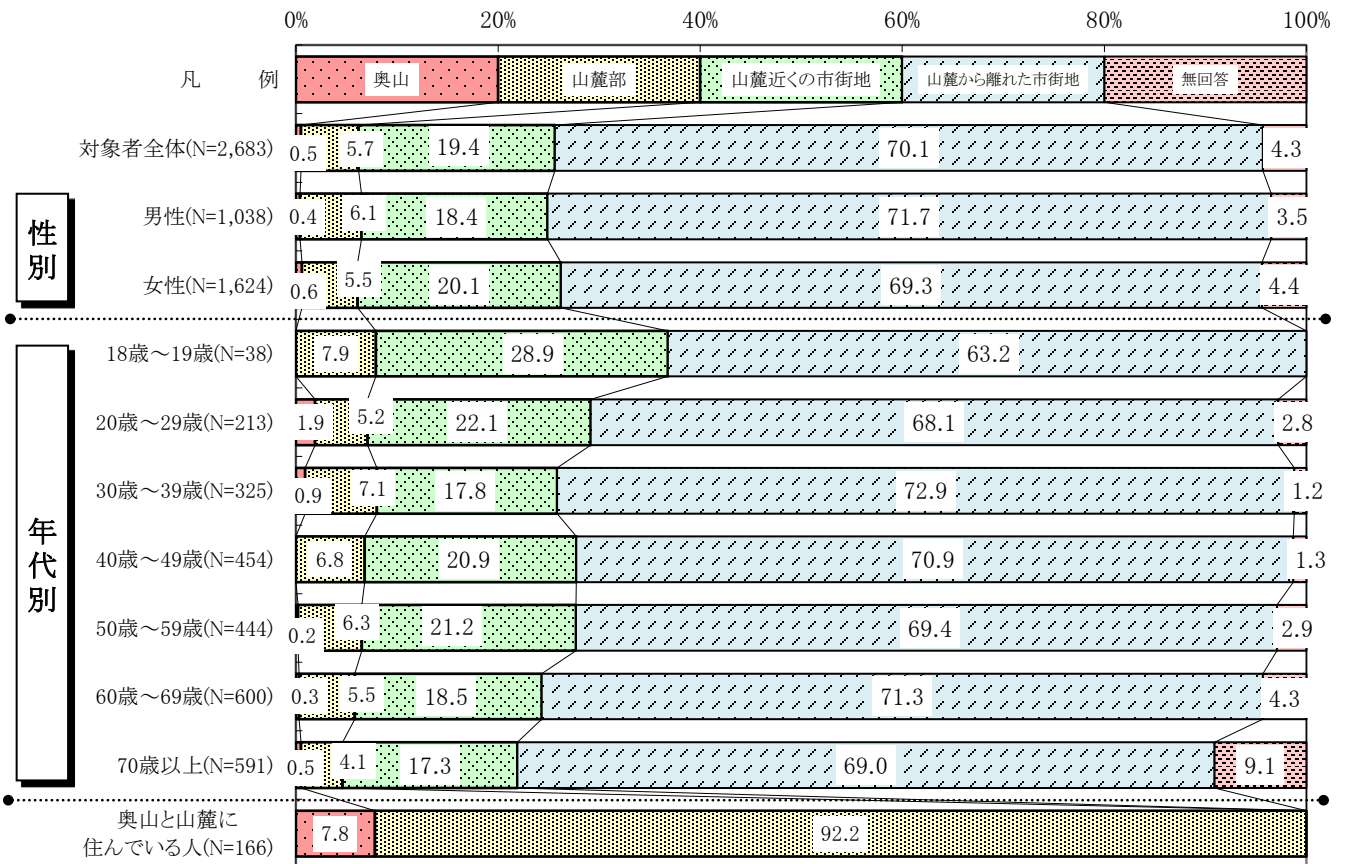
【問6】 あなたのお住まいはどのあたりですか。上の図を参考にして、もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

「山麓から離れた市街地に」住んでいる人が約7割（「奥山」0.5%、「山麓部」5.7%）

対象者全体(N=2,683)



【対象者全体】 居住地域について、「奥山」が 0.5%、「山麓部」が 5.7%、「山麓近くの市街地」が 19.4%、「山麓から離れた市街地」が 70.1%となっている。



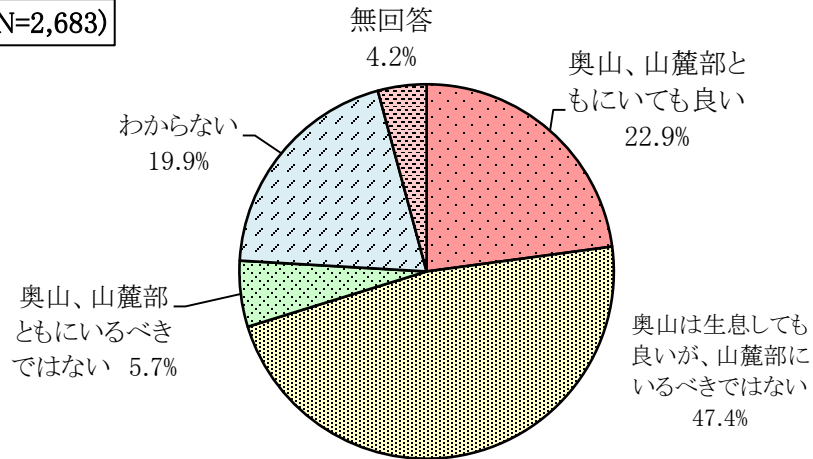
## 奥山と山麓部でのヒグマと人間との共生

【問 7】 あなたは、「奥山」と「山麓部」でのヒグマとの共生について、どのように考えていますか。

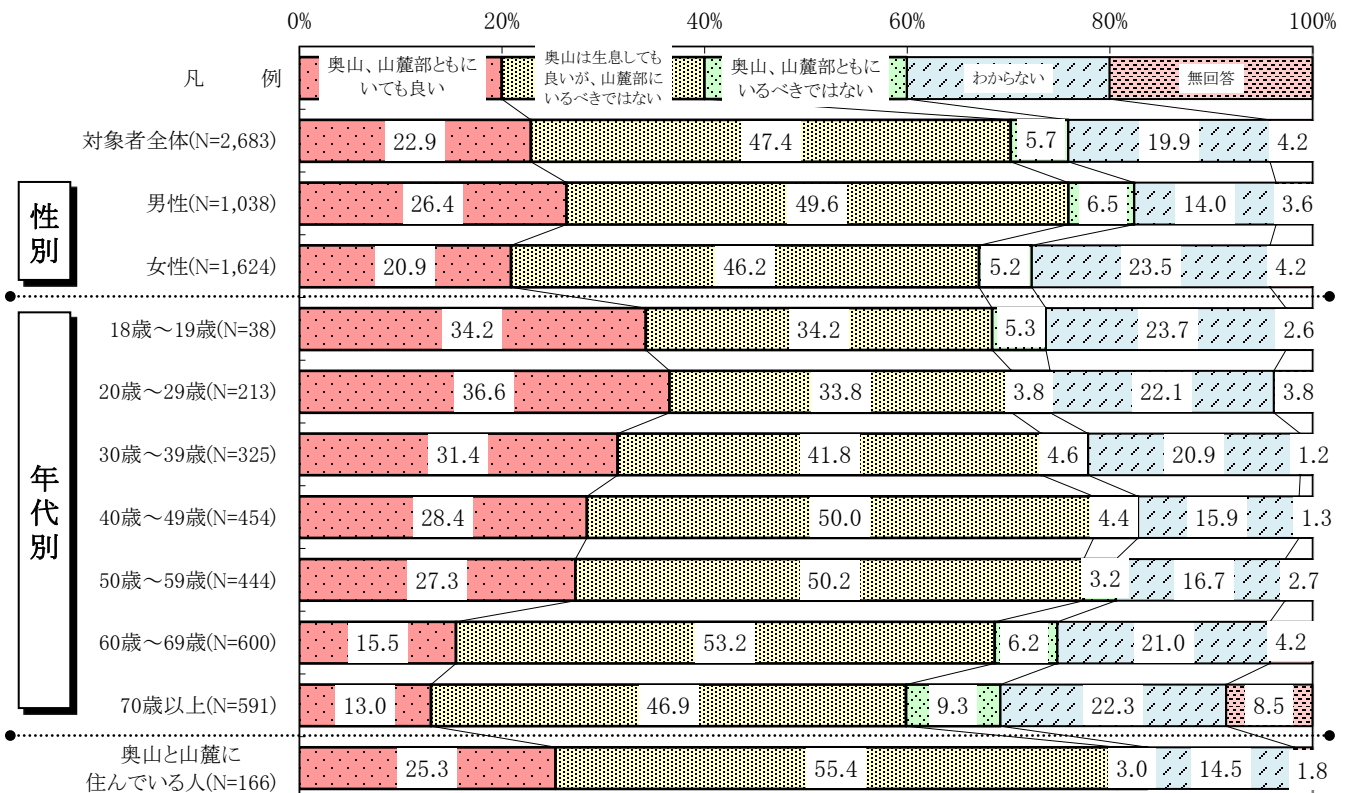
※ここでいう共生とは、複数の生物が相互に関係しながら共に生きていくことを意味します。人間とヒグマの場合は、私たちがヒグマに関する正しい知識を持った上で、種々の被害が生じない状態を維持することが必要になります。

5割弱がヒグマは「奥山は生息しても良いが、山麓部には生息すべきではない」と考えている

対象者全体(N=2,683)



【対象者全体】 奥山と山麓部でのヒグマの共生について、「奥山、山麓部とも良い」が 22.9%、「奥山は生息しても良いが、山麓部にいるべきではない」が 47.4%、「奥山、山麓部ともいるべきではない」が 5.7%となっている。なお、「わからない」と回答した人は 19.9%となっている。



【性別】 「奥山、山麓部とも良い」は、男性が 26.4%で女性の 20.9%より 5.5 ポイント高くなっている。

【年代別】 20歳代は「奥山、山麓部とも良い」の回答が最も多いが、30歳代以上では年代が上がるほど回答の比率は低くなっている。

【奥山と山麓に住んでいる人】 「奥山は生息しても良いが、山麓部にいるべきではない」は 55.4%と、全体よりもやや高くなっている。